

F 1-1 道路整備計画における住民参加と情報公開の一事例

公共事業におけるパブリックインボルブメント 事例調査報告 その1

香川大学工学部安全システム建設工学科	○白木	渡
香川大学工学部安全システム建設工学科	森下	一男
香川大学工学部安全システム建設工学科	角道	弘文
四国地方建設局企画部企画課	山下	久男
第三港湾建設局高松港湾空港工事事務所	山縣	宣彦
香川県土木部土木監理課技術管理室	山口	繁康

1. はじめに

平成 10 年 3 月の高松東道路、4 月の明石海峡大橋の開通によって高速道路時代が到来することにより、大内・白鳥両町が位置する香川県東部は香川県の玄関口としての位置づけが高まっている（図-1）。しかし、両町唯一の幹線道路である国道 11 号線は慢性的な混雑が発生しているため、同国道バイパスの早期整備が求められている。



図-1 大内白鳥町位置図

（出典：広報おうち）

道路整備は、公共事業のなかで大きなウエイトを占めている。道路整備の一般的な特質として、①日常的な地域社会への影響が大きいこと、②地域の活性化施策との関連性が大きいこと、③用地取得や供用後の騒音問題など市民への直接的利害関係が予想されること、などがあげられる。これらのことから、道路整備計画の策定にあたっては、積極的な住民参加や情報公開が不可欠であるとともに、計画のどの段階で情報提供や意見交換の場を設けるかが課題である。

このような背景にあって、大内白鳥地区では「街づくり・道づくり検討会」（以下、検討会という）が設置され、街づくりと一体となった道路整備計

画の検討が試みられた。本地区では、路線選定や道路構造が全く検討されていない時点、すなわち整備計画策定の初期の段階から地域との意見交換が試みられた。

本報告では、大内白鳥地区の道路整備計画を事例として取り上げ、住民参加と情報公開に着目しながら今後の道路整備における P I のあり方について考察する。

2. 大内白鳥地区における住民参加

(1) 検討会の設置と検討の流れ

検討会委員は 11 名より構成され、将来の街づくりをも視野に入れるといった検討会の趣旨を反映し、商工会会長などもメンバーとなっている。

検討会は平成 9、10 年度に行われ、バイパス整備計画の最適なイメージ案（大まかな路線計画）を確定し、バイパスを前提とした街づくりの方向性を探ることを目的として計 4 回開催された。第 1 回では「地域の現状把握と道路の必要性」、第 2 回では「地域に求められる道づくりと街づくり」、第 3 回では「バイパス整備計画イメージ案の検討とその評価」、第 4 回では「バイパス整備計画イメージのとりまとめ」を主なテーマとし、最終的には検討会の提言書がとりまとめられた。

第 3 回検討会において、事務局（四国地建香川工事事務所）より整備計画イメージ案が 3 とおり示された。「案 1」は既存市街地内を通過する現道北側バイパス案、「案 2」は現道を拡幅して対処する案、「案 3」は南部郊外を通過する現道南側バイパス案である（図-1 参照）。

第 3 回検討会では、道路に係わる諸課題や道路整備の必要性を抽出したうえで 3 つの計画イメー

ジ案のなかから「最適案」を絞り込み、その案に沿って街づくりへの対応策が検討された。

しかし、検討会委員全員が「案3」を支持したため、座長より「案3バイパス道から外れる地域が沈滞すること、あるいは町全体の土地利用計画や住環境をどのように考えるか」、「街づくりからみて最も必要とされる道路とは何か」などといった問題提起がなされた。これは、事務局が提示した案に対してのみ議論するのではなく、事務局が見落としていた視点等について広範に議論を深めようとしたためである。

(2) アンケート、ヒアリング調査の実施

両町住民を対象とした郵送方式によるアンケート調査を平成10年9月に実施（各町800名抽出、回答率55%）し、道路に対する現状認識や街づくりに対する意識や要望を把握した。

また、両町内に位置する小中学校（各2校）、大内警察署、大川広域消防本部、大内町文化財保護関係、白鳥町文化財保護の各機関に対してヒアリング調査を行った。とくに、文化財保護関係者に対しては、史跡、町指定の文化財等を把握することにより、これらへのアクセスを考慮した道路整備計画を検討することを狙いとしたためである。

3. 大内白鳥地区における情報公開

地域住民に対する情報公開の主なチャンネルは、両町の広報誌（「広報おうち」、「広報しろとり」）である。検討会開催状況、アンケート協力依頼、アンケート集計結果等が掲載されており、情報が随時公開・還元されている。これらの記事は町独自でつくられたものではなく、事業主体が作成したものを両町がレイアウトして掲載したものである。

広報誌では、次回検討会での検討内容や日程が紹介され、オブザーバー出席を呼びかけている。ただし、検討会の開催が平日であること、開催日と広報誌発行のタイミング整合しないこと等の理由により、出席状況は芳しくなかった。

両町の役場で検討会資料、アンケート分析結果が閲覧可能であり、繰り返し意見が集約できるような体制をとっている。また、検討会提言書のパンフレットを作成し、両町役場に配布する予定と

なっている。同時に、提言書の概要は両町の広報誌を通じて住民に公開される。

4. まとめ

(1) 本調査の成果

本地区において試みられたP Iの評価として、以下のように要約できよう。

①検討会を通じて、両町の振興施策と連動した道路整備計画の検討が試みられた。これにより、公共事業による地域への波及効果等について理解を深める機会となった。

②道路整備が地域へ与える効果、便益の多面的な評価に関する話題が提供されるなど学習プロセスがある程度組み込まれ、検討会委員が共通の認識をもつことができた。

③国道バイパスは不特定多数を対象に供用されることを考えれば、検討会委員を両町関係者に限らず範囲を広げるなどの余地がある。また、婦人会会長は白鳥町のみであり大内町からは選出されていない。委員の階層を均一化するという点では、検討の余地がある。

④本地区は当初より道路整備に強い関心があり、道づくりに関する検討に傾注した結果、街づくりに関する議論が不足していたことは否めない。地域に親しまれる道路を計画するためにも、バイパス道と関連づけた街づくりの方向性について、住民の関与が今後さらに求められる。

⑤既存道路および新たなバイパス道を軸とした街づくりは、両町が主体となって検討せざるをえない。地元行政機関は検討会へのより密接な関与が必要だったと考えられる。

(2) 今後の課題

検討会を中心とした計画策定プロセスを地域住民がどのように受け止めているかについて、追跡調査する必要がある。

《謝辞》聞取調査並びに資料収集にあたっては建設省四国地方建設局香川工事事務所にご協力を頂いた。また、本調査のとりまとめにあたっては長町三生氏（呉工業高等専門学校長）にご指導を賜った。記して感謝致します。